

男子は徳島市立48年ぶり

弓道

(鳴門場)

【男子】団体戦リーグ(計100射)①徳島市立(多喜、宇田、笹田、吉野、山崎、木下)5勝(66中)②鳴門瀬戸3勝2敗(60中)③協野3勝2敗(49中)④徳島科2勝3敗(62中)⑤城北1勝4敗(43中)⑥鳴門瀬戸1勝4敗(38中)1、2、3位と5、6位は的中数による。

【女子】団体戦リーグ(計100射)①高岡西(篠、高、大栗、森、小川、濱口、榎下)5勝(66中)②徳島市立4勝1敗(76中)③鳴門瀬戸3勝2敗(60中)④徳島商2勝3敗(48中)⑤高岡東1勝4敗(53中)⑥協野5敗(47中)

チームワークで勝利もぎとる
男子は徳島市立が頂点

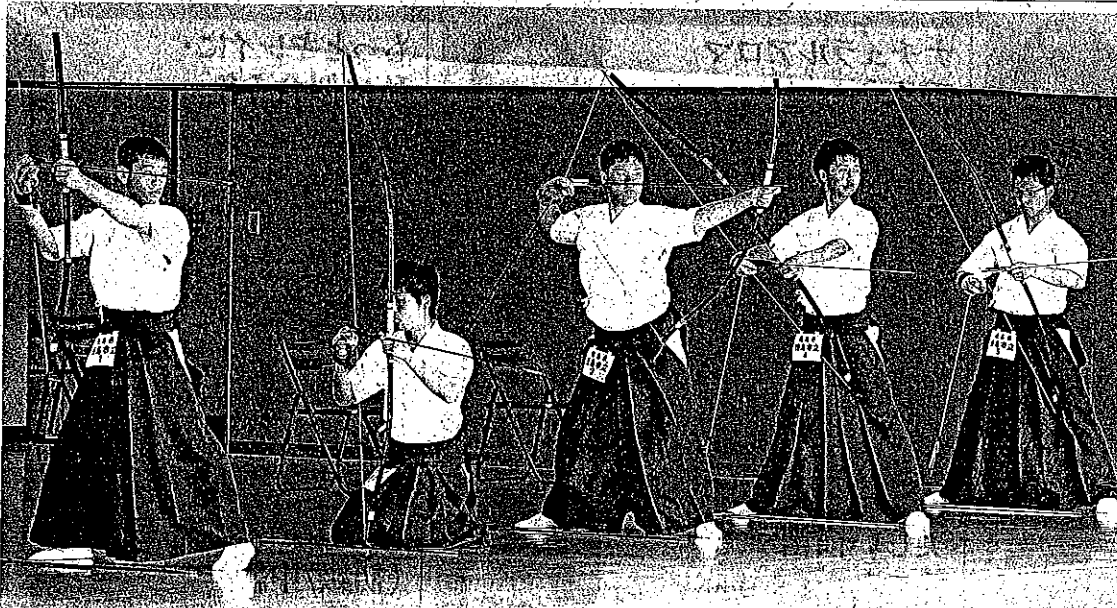
に立った。唯一の3年生として部員を引っ張った山脇主将は「誰かが崩れてもカバーし合える」とチームワークの良さを自慢した。

1戦目がポイントだった。相手は4月の県春季大会の覇者で、徳島市立が準決勝で敗れた徳島科技。徳島市立は5人のうち、3人が3中するなどして計13中。徳島科技は計12中にとどまり、1中差で勝利をもぎとった。

「あの1勝で波に乗ることができた」と吉野は振り返った。部員が多く、いつも好成績を残す女子に対し、男子の影は薄かった。試合に必要な5人がそろわない時期もあったが、4月に1年生2人が入部して総勢6人で県総体出場にこぎつけた。

大会前、県外遠征で矢を放つ直前の構えを長く保つ練習法を教わり、全員の的中率が上がった。山脇主将は男女の部員が用意した必勝のミサンガと千羽鶴を見ながら「インターハイでも頑張る」と意気込んだ。

(高杉繁樹)



弓道男子団体 48年ぶりに優勝した徳島市立